

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [45612] 白血病キメラ遺伝子スクリーニング解析

受託開始日

- 平成30年3月27日(火)



白血病キメラ遺伝子スクリーニング解析

一般に悪性腫瘍の発生には何らかの形で遺伝子異常が関与すると考えられており、造血器悪性腫瘍にあっては染色体転座に伴う多種多様なキメラ遺伝子の形成が認められます。そのうち特定の遺伝子異常を有する造血器腫瘍はWHO分類上で独立した疾患単位に位置付けられていることから、キメラ遺伝子同定は造血器腫瘍の病型診断や治療方針の決定、予後予測の有力な指標となります。

造血器腫瘍に対しては、始めに寛解導入療法により光学顕微鏡レベルで腫瘍細胞を検出できなくなる“血液学的完全寛解”に到達させ、さらに治療を中止しても疾病が再発しない段階まで腫瘍細胞を減少させることを目指して地固め療法を行います。ここで分子レベルでも腫瘍細胞を検出できなくなる状態を“分子生物学的完全寛解”と呼びます。こうした分子レベルにおける腫瘍細胞／微小残存病変(MRD)の消長をモニタリングする際、当該腫瘍を特徴付けるキメラ遺伝子が同定されていれば、格好のマーカーとなることはいうまでもありません。

白血病キメラ遺伝子スクリーニングは、白血病を始めとする各種造血器腫瘍において特定病型で出現頻度の高いものを主体に計28種のキメラ遺伝子の有無をリアルタイムPCR法にて一括判定できる定性検査です。別に用意した各種キメラ遺伝子の個別定量検査とともに、造血器腫瘍の的確な診療に寄与することを期待しております。

検査要項

項目コード	45612
検査項目名	白血病キメラ遺伝子スクリーニング解析 ^{*1,2}
検体量/保存方法	骨髓液 1.0mL / 冷蔵 [容器番号：22番]
検査方法	リアルタイムRT-PCR法
基準値	検出せず
所要日数	4～10日
検査実施料	未収載
備考	*1：受付曜日：月～金曜日(休祝日とその前日は不可) *2：ご依頼に際しては、『遺伝子検査依頼書』をご利用下さい。

検出可能なキメラ遺伝子

STIL-TAL1	NPM1-RARA	MinorBCR-ABL1	ETV6-MN1
MLL-EPS15	DEC-NUP214	MicroBCR-ABL1	PML-RARA
MLL-MLLT11	MLL-MLLT4	MLL-MLLT10	CBFB-MYH11
TCF3-PBX1	RUNX1-RUNX1T1	MLL-MLLT6	FUS-ERG
NPM1-MLF1	SET-NUP214	ZBTB16-RARA	TCF3-HLF
RUNX1-MECOM	MLL-MLLT3	MLL-ELL	MLL-FOXO4
MLL-AFF1	ETV6-ABL1	MLL-MLLT1	
ETV6-PDGFRB	MajorBCR-ABL1	ETV6-RUNX1	

参考文献

大西 康, 宮村耕一：遺伝医学 6：206-215, 2002.